

研修医通信

Vol.15



この2ヶ月間、外科研修でお世話になりました松阪中央総合病院2年目研修医の中瀬です。研修医なりたての頃、初めてまわった科が外科だったのですが、当初は病院の生活に慣れることに精一杯で、訳も分からないままに研修が終わっていました。なので、紀南での外科研修が自分にとっての本当の外科研修だったように感じられました(松中の先生ごメナサイ)。こちらでの手術件数は決して多いとは言えませんが、その分、1件1件に集中して取り組むことができ、それぞれの疾患に対する知識を深めることができました。先生方も熱心に指導して下さい、オペ中、「ここ、できる? 何度も見てきたから、もうできるよな、ほれ、やってみ」と、研修医では普段やらせてもらえないような手技も沢山体験させて頂きました。また、「しくじったらおまえ死刑ね。」と宣告され、汗だくだけの緊張の中で自らの渾身の一結紮が成功したときは安堵のあまり失禁してしまいました。…すいませんウソです、失禁はしてません。

あつという間に過ぎていった2カ月でした。自分のできなさを実感しました。自分の“できない”を、1つずつ着実に、“できる”に変えていけるように精進します。そして、この紀南病院での経験を糧に一回り大きな医師(腹まわりは小さく)になれるように頑張っていきたいと思えます。お世話になった先生方、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。



散策大好き不思議ガール、三吉Dr.

三重大学附属病院の研修医2年目の三吉彩子です。内科研修で1か月間お世話になりました。紀南病院へは夜に車で来たのですが、どんどん人気のない山の中へ入って行き、とんでもない所へ来てしまったと不安になりましたが、次の日には素晴らしい海と山の風景に感動しました。最初の3日間ぐらいは、慣れない病院のシステムと内科研修医が一人という環境にホームシックでした。2週目から二宮先生が加わってくれ、大学病院ではありえないほど優しい看護師さんに助けられ、やっと慣れてきたところで1か月が終わってしまいました。紀南病院の先生たちは本当に何でも診るといった感じで、知識が幅広くて尊敬します。また、外科と内科の敷居が低く連携がとれているなど感じました。都会への交通の便が悪い所が難点ですが、居心地良くももっとここにいたいです…。どうもありがとうございました。



1枚使いそびれてしまった中瀬。およよ…ま〜、松阪で使える…わけではない。断じて、ない。

普段の研修先の先輩方から聞いた紀南病院の話は驚くものが多かった。「レジデントが優秀すぎる」「医師宿舎は不在時でも1日中冷房をつけとかないと畳にカビが…」「近くのスーパーで必要なものは全部揃う代わりに必ず病院の誰かに会う」「お好み焼き屋の女将さんが早口」「なんだかんだ言って一番うまい飯は病院食堂のメシ」などなど。

実際その多くは本当だった。厳しくも愛のあるU吉先生、頭部MRIを見つめる時は目がキラキラのT先生方は本当に何でも知っていた。「ここは法律相談所じゃねえぞ」って思うくらい医師宿舎内には蟻さんが行列して大人気だった。確かに看護婦さんを毎回スーパーでみかけた。早口だったけどもう一度行きたかったなあ、お好み焼き屋。初日は病院食堂のチキン南蛮定食を昼も夜も食べた。いつもサイドメニューにあるカレーは心残りだった。

紀南病院は内科の先生が本当に何でもやっけて、自分の憧れる医師像をすでに獲得している先生方ばかりだった。そして指導も非常に熱心で、研修目標の通り、多くの恥をかいて多くのことを学んだ。幾度となく看護婦さんをイラッとさせただろうが我慢して声をかけ続けてくれた(ご迷惑をおかけしました)。消化管内視鏡にも触れさせていただいた。3年目からの専攻科を悩んでいる自分にとって方針転換も考えるくらいのもだった。いつか食べたチキン南蛮定食の様に、紀南病院のリピーターになってしまおうだろうか…。



釣り師二宮Dr、こちらでは何を釣るのでしょうか(魚?女?)
釣果どうぞ期待!